

## 年間第14主日の説教

金 大烈 神父 2010年7月4日(日)

### 《親が信仰の生活をするのが召命の第一歩》

福音に入る前に感動的な話しを伝えさせていただきます。

何日か前からインターネットや新聞などで話題になっている、中国で取られた一枚の写真があります。太田のイオンのような大きなショッピング・モールの前で赤十字のボランティアの人々が何かの目的で募金を呼びかけていました。大きなモールの前ですから沢山の人が通り過ぎていきますが誰も募金箱を見ない、募金する人がいなかったんです。そのとき誰が見ても物乞いをするように見える人が近づいて来たので、赤十字の人たちは緊張したそうです。これは募金箱の中のお金を奪いにきたのではないかと思いました。その人は何も言わず、一日物乞いをして得たような缶の中のお金を全部募金箱に入れたそうです。そこにいた赤十字の6、7人の人が一斉にお辞儀をしているその瞬間が撮られた写真でした。その写真を見た13億の中国の人々が「うちの国はメチャクチャかもしれないけれどもまだ希望がある。」という感想を持ったそうです。貧しい人が自分の全財産を募金している姿もすごいんですけど、私が言おうとするのは、その姿を見て感動してその瞬間一斉にお辞儀をしてしまうその心が全ての人の中にあるということです。この世の中、人を信用することは難しくなっています。笑顔で近づいてもこの人は何の目的で私に笑顔するのかと疑うのが今の生き方です。しかし、何が変わってもどのような世界になっても神様がくださったひとつの心は、美しいもの、正しいものを見たら心を打たれるということです。

この前の宿題も沢山の方が心を込めて書いて下さいました。何日も考えたのではないのでしょうか。私はそれを読んで感動しました。やりがいも感じました。全ての人の心の中に絶対奪われてはいけない宝があります。それによって私たちは生きがいを感じたり、人との関わりができると思います。皆様が出して下さった課題を読みながら、そのような心でこれからも頑張ってくださいと願う心でいっぱいです。幸せというものはそんなに複雑なものではありません。結局、小さいことで涙流すことができれば、誰か慕う人がいれば、分かち合える人がいれば、困っているとき力づけてくれる人がいれば、それが人生の中の幸せではないでしょうか。それ以外のものを持つといくらがんばっても手に握るのは虚しさだけではないでしょうか。皆様この物乞いのような人も一日やっと手に入れたお金を募金するときいろいろな心の動きがあったと思います。しかし、思い切って募金した姿、素晴らしいですね。でももっと私が希望的に見たいことはすべての人間の中に美しいもの、崇高なものを見たら心が動く、そこに幸せが感じられることです。

私たち小さい力かもしれませんが、これからの人生、感動させられれば幸せだと思っていきましょう。私の一言で誰かが心打たれて生き方を変えるかもしれません。立ち上がる勇気を持てるかもしれません。そういう気持ちで私たちが信仰の生活をすれば死が目の前にきても、どんな怖いことが待っていても、それ以上に強い希望が与えられると確信します。

福音(ルカ 10・1-12、17-20)に入ります。

「働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」とイエス様がおっしゃいました。数週間前、司祭年が終わった次ぎの日曜日に召し出しについて皆様に申し上げたことを覚えていらっしゃいますよね。今日は違う観点から見たいと思います。司祭、修道者を作るために何が必要だと思いますか？ はっきり申し上げます。家庭の子供の信仰教育です。家庭で、信仰の教育の中で育てなければ子供たちは大人になっても信仰的にならないです。今、回りをご覧になって下さい。10代、20代、30代がほとんど見られません。皆様、重く感じて下さい。未来はどうなるでしょう？ さあ、幼稚園、小学生、中学生の子供を持っているお母さんは手を上げて下さいますか……。こういうことです。うちの教会では外国人の子供が多いです。このミサの後、スペイン語ミサがあるし、その後はブラジル人の為のミサがありますが、そのときもお母さんたちに新しい規則について話します。

皆様、私はこの教会に来てから(3年間)子供たちのためにどうすればよいのか悩みました。この子供達がどうすれば神様の愛を感じ神様を愛する心ができるのか、そのために悩みました。土曜学校の先生たちにも話しかけ、親たちにも話しかけてきました。しかし、この3年間、私は優先的に大人の為に力を使ったので、集中的に子ども達には手が届かなかったところが沢山ありました。しかし、近いうちに子供にもっと力を注ぎたいと思います。なぜなら、この子供たちが未来の日本の教会の姿になるからです。苦しくてもがっかりしても諦めてはいけないと思います。お母さんたち、もし学校から「来て欲しい」という知らせがくれば、仕事があっても何とかして子供のために学校に行くんでしょう？ しかし、教会のことはどうでしょうか。それよりもっと大事な宝を得られる信仰の教育にはあまりも軽く思っているんでしょう。これが現実です。

今の太田教会では車でなければ子供たちは教会に来られません。子供たちが教会に来たくても親が「忙しくて連れていけない」と言えば来られないのです。子供たちは権利を奪われる事になります。神様からの権利を奪われるということです。面白いのはキャンプやパーティのときは沢山来ます。今年初聖体を受けた子供は21名いました。でも今ミサに与っているのは5、6人です。それ以外の子供たちはどちらにいますか？ そして、その前堅信の秘蹟を受けた子供総数も20人以上でした。その子供たちもほとんど行方不明です。

私は決心しました。信仰の生活をしていない親、熱心でない親の子供には何もしません。初聖体も受けさせません。親が義務を守らなかったら教会から頂けるどんな恵みも私は授けません。そのように厳しくします。何ヶ月も見えなかったお母さんが、ある日、初聖体のために子供を連れてきて「一緒に初聖体を受けるための勉強をさせて下さい。」と言いました。「あなたと会うのは初めてですね。これから一生懸命祈りの生活、信仰の生活をしなければ私は子供を預かりませんよ。」と言いました。しかし、初聖体が終わったらどこに行ってしまったのかわかりません。皆様、信仰は記念行事ではありません。子供のために一番必要としているものをあげるのが親、お母さんの役割だと思います。

皆様の息子さんや娘さんが東京やいろいろなところで信仰の生活をしているか、関心を持ってご覧になって下さい。もし休んでいたら親として強く言って下さい。それが重要です。申し訳ありませんが、日本の親は甘すぎます。何で子供を恐がっていますか？ 世界が変わっても、親は親、足りなくても親です。親としての役割をちゃんとしましょう。今日来ていない親たちにも伝えて下さい。

ありがとうございました。